

感染症科

1. 体制

感染症科は、平成 21 年から感染制御対策室と同義であり、院内感染制御対策と感染症診療支援業務活動を行ってきたが、平成 28 年度の平成 29 年（2017 年）1 月より感染制御対策チーム（ICT）と感染症科（感染症診療支援）に分かれて業務を行っている。今年度の特徴としては、2020 年からの新型コロナウイルス・パンデミック下において引き続き、感染制御活動に対する協力体制を敷いたこと、及びスタッフによる診療体制をさらに強化して、初期研修医の院内教育および院内医師への感染症治療指導を充実させたことである。

a. スタッフ

医師：

羽田 敦子	小児科部長、感染症科兼務	部長（Infection Control Doctor, ICD）
丸毛 聡	呼吸器内科・感染症科兼務	部長（Infection Control Doctor, ICD）
山本 健人	消化器外科・感染症科兼務	
井上 大生	呼吸器内科・感染症科兼務	部長（Infection Control Doctor, ICD）
中島 俊樹	リウマチ膠原病内科・感染症科兼務	副部長
塚口 諒	糖尿病内分泌内科・感染症科兼務	専攻医
大沢 一希	消化器内科・感染症科兼務	専攻医
辻村 敦史	脳神経内科・感染症科兼務	専攻医
松本佳己	脳神経内科・感染症科兼務	専攻医
森内俊達	脳神経内科・感染症科兼務	専攻医
大島 正義	血液内科・感染症科兼務	専攻医
羽田美沙祈	血液内科・感染症科兼務	専攻医
大植薫	腎臓内科・感染症科兼務	専攻医
酒井 達紘	小児科・感染症科兼務	専攻医
杉山 純平	脳神経外科・感染症科兼務	専攻医
岩阪 晋吾	リウマチ膠原病内科・感染症科兼務	専攻医
羽生 敬	脳神経外科・感染症科兼務	専攻医
赤津希海	初期研修医	（SR2）
池田陽呂	初期研修医	（SR2）
ウェルズ健	初期研修医	（SR2）
大瀧 新	初期研修医	（SR2）
木村茉樹	初期研修医	（SR2）
篠原有紀子	初期研修医	（SR2）
土井脩平	初期研修医	（SR2）
畑山安佳里	初期研修医	（SR2）
薬師川高明	初期研修医	（SR2）

丹賀康太朗 初期研修医 (SR2)
 野々原洋輔 初期研修医 (SR2)
 渡邊元貴 初期研修医 (SR2)
 望月俊吾 初期研修医 (SR2)
 松川華那 初期研修医 (SR2)
 秋山蒼 初期研修医 (SR1)
 菊地聡太 初期研修医 (SR1)
 北川瑞 初期研修医 (SR1)
 嶋田有紗 初期研修医 (SR1)
 田中和音 初期研修医 (SR1)
 辻野聡一 初期研修医 (SR1)
 服部恵実 初期研修医 (SR1)
 藤野三奈 初期研修医 (SR1)
 吉田美来 初期研修医 (SR1)

看護師（専従感染管理認定看護師）：

亀澤 恵 看護部主任
 濱 ひろみ 看護部師長

薬剤師：

上田 覚 薬剤部副部長（抗菌化学療法認定薬剤師、感染制御認定薬剤師）
 高橋 有 薬剤部係長（感染制御専門薬剤師）
 小林 和博 薬剤部主任（感染制御認定薬剤師）

臨床検査技師：

宇野 将一 臨床検査技師部副技師長
 中塚 由香利 臨床検査技師部主任
 小林 賢治 臨床検査技師部主任

b. 診療実績

1. 感染防止対策加算対象の院内感染症に関する取り組み

(1) 感染症治療介入

管理抗菌薬使用患者、血液培養陽性患者、重症感染症患者をリストアップし、毎週木曜日にカンファレンスを行い、患者の病状や抗菌薬の使用状況の確認、感染症治療の指導を行った。令和5年度は2529件であった。（令和4年度2087件、令和3年度2275件、令和2年度2496件、平成31年度2199件、平成30年度1884件）。

内訳：

リ膠	眼科	形外	血液	呼内	呼外	産婦	児外	耳鼻	小児
95	4	28	408	492	17	63	19	25	93

消外	消内	心外	循内	脳神外	脳神内	泌尿	腎内	整形	糖内
----	----	----	----	-----	-----	----	----	----	----

292	272	17	171	81	101	66	112	82	33
-----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	----

乳腺	皮膚	精神	腫内	救急	外来	計
14	28	0	15	1	0	2529

(2) 抗菌薬の適正使用の推進 (Antimicrobial Stewardship Team, AST 活動)

i. 抗 MRSA 抗菌薬・広域抗菌薬の使用状況の確認

抗 MRSA 抗菌薬については、TDM を通して使用状況を確認し、適正使用を推進した。TDM 症例でコントロールに難渋する症例や長期投与症例については、感染症カンファレンスの際に感染症科医師と検討し、診療支援を行った。

- (1) TDM 対象外の抗 MRSA 抗菌薬や広域抗菌薬について、また、使用方法に疑問があれば AST 担当薬剤師が相談に応じた。使用状況を確認し、各病棟での使用状況を病棟薬剤師が監視した。その際に解決できない症例については、感染症専門医への適宜相談等を行い、抗菌薬の適正使用を推進した。

1. 広域抗菌薬長期投与者への介入

- (1) 2015 年 1 月より、カルバペネム系抗菌薬を 15 日以上継続投与中の患者を長期投与者としてリストアップし、切り替え提案や適正使用を促す等の介入を開始している。カルバペネム系抗菌薬は 98 件 (63 人)、タゾバクタム・ピペラシリン長期投与者 24 件 (19 人)、抗 MRSA 長期投与者 88 件 (39 人) となり、合計件数は 210 件 (121 人) であった。(令和 4 年度 91 人、令和 3 年度 89 人、令和 2 年度 89 人、令和元年 (平成 31 年) 度 79 人、平成 30 年度 77 人、平成 29 年度 72 人)。対象患者数は長期投与者が多く増加した。

2. 職員研修

- (1) 第 1 回 ICT・AST 合同講習会 『A S T 活動の目的』

小林 和博 薬剤師, 高橋 有 薬剤師, 上田 覚 薬剤師

- (2) 第 2 回 ICT・AST 合同講習会 『職員が知っておくべき薬剤耐性菌』

小林 賢治 臨床検査技師

- (3) 第 3 回 ICT・AST 合同講習会 『菌血症の診療 (成人編) —抗菌薬適正使用のために—』

大島 正義 先生

- (4) 第 4 回 ICT・AST 合同講習会 『新型コロナの抗ウイルス薬について』

小林 和博 薬剤師, 高橋 有 薬剤師, 上田 覚 薬剤師

3. 感染症科業務

- ① 血液培養陽性患者アラート 月～金曜日

血液培養陽性患者に対して、適切な抗菌薬投与が開始され、中心静脈カテーテルの抜去や血液培養陰性化確認等感染管理上の適切な処置がなされているか確認し、翌カンファレンスにて介入症例を検討の上、指導した。令和 5 (2023) 年度 580 件である。(参考: 令和 4 (2022) 年度 580 件、令和 3 (2021) 年度 581 件、令和 2 (2020) 年度 631 件、H31・R 元 (2019) 年度 977 件、H30

(2018) 年度 819 件、H29 (2017) 年度 487 件、H28 (2016) 年度 603 件、H27 (2015) 年度 232 件)

② 感染症診療対診+随時コンサルテーション

主に院内感染症に対する抗菌薬選択、投与期間等について、令和 4 年度は 104 件（令和 3 年度は 135 件、令和 2 年度 101 件、令和元年（平成 31 年）度 122 件、平成 30 年度 87 件、平成 29 年度 108 件）の対診と随時コンサルテーションを受けた。

③ B型肝炎防止プロジェクト 月 1 回前年度に引き続き、免疫抑制・化学療法により発症する B 型

肝炎再活性化防止対策として、対象診療科の医師宛に 10,265 件の検査警告メールを配信した（2022 年度 5895 件、2021 年度 6596 件、2020 年度 6218 件、2019 年度 6467 件、2018 年度 4895 件）。また、随時質問を受けている。対象：抗癌剤、免疫抑制剤、抗リウマチ剤、ステロイド（中等度以上長期にわたる症例）投与患者のうち、HBs 抗原、HBc 抗体、HBs 抗体検査が未実施の患者

④ C型肝炎感染アラート

C型肝炎ウイルス感染者見落とし防止のため、HCV 抗体陽性患者 188 件（延べ）の診療科医師宛にアラートメールを配信した。

⑤ 入院中 TB アラート 月 1 回

長期入院で結核発症リスクの高い患者を抽出し、担当医へレントゲン撮影および抗酸菌培養を勧告。2023 年度は 155 件。（参考：2022 年度は 253 件）。

⑥ 梅毒アラート 月 1 回

2023 年度は、年間 18 件（2022 年度年間 28 件、2021 年度年間 23 件、2020 年度 30 件）に対して梅毒検査陽性患者に対し、適切な検査と治療が行われているか確認し、必要に応じて指導した。届け出されていない場合には保健所に届けるよう勧告した。

c. 研究実績－論文・学会発表のテーマ・発表者

(1) 論文

原著

1. Kazuhiro Kobayashi, Atsuko Hata, Waki Imoto, Shigeki Kakuno, Wataru Shibata, Koichi Yamada, Hiroshi Kawaguchi, Norihiro Sakurai, Toshikazu Ito, Kazuya Uenoyama, Tamotsu Takahashi, Satoru Ueda, Toshiro Katayama, Masahide Onoue & Hiroshi Kakeya
Evaluation of predictors of third-generation cephalosporin non-susceptibility and factors affecting recurrence or death in bacteremia caused by *Citrobacter freundii* complex, *Enterobacter cloacae* complex, and *Klebsiella aerogenes*
Journal of Chemotherapy, 2024 Mar 7:1-11. DOI: 10.1080/1120009X.2024.2323326
2. Daiki Tanno, Kyoichi Saito, Yasuaki Tomii, Yukari Nakatsuka, Kohei Uechi, Kazutaka Ohashi, Tomoo Hidaka, Yukio Yamadera, Atsuko Hata, Masahiro Toyokawa, Hiroki Shimura. A Multicenter Study on the Utility of Selective Enrichment Broth for Detection of Group B Streptococcus in Pregnant Women in Japan. Jpn J Infect Dis. 77(2):68-74. 2024

(2) 学会発表

1. 高橋 有 他 「バンコマイシン塩酸塩点滴静注用欠品時の抗MRSA薬使用量動向調査」第33回日本医療薬学会 2023年11月3日～2023年11月5日
2. Toshiki Nakajima, Masahide Funabiki, Reiko Takahashi, Yoshitaka Imura Risk of infection in patients with systemic lupus erythematosus is different between male and female 日本リウマチ学会総会・学術集会のInternational Concurrent Workshop17 2023年4月25日
3. 井上大生：ウィズコロナ時代の呼吸器感染症の外来診療について．アストラゼネカ地域勉強会 2023.8.29.大阪
4. 井上大生：非HIV患者におけるニューモシスチス肺炎．大阪北肺疾患研究会 2023.11.13.大阪

(3) 院外活動

特になし

(4) 講演会

第21回北大阪感染症研究会 2024年3月7日(木)

【教育講演】17:00-17:50

座長 医学研究所北野病院 副院長・消化器外科主任部長

寺嶋 宏明先生

演題名

「すばらしい人体」の作家が語る「すばらしい医学」
～20万部ベストセラー教養書が伝える医学の進歩～

講師

医学研究所北野病院 消化器外科・感染症科

山本健人先生

【特別講演】

座長 医学研究所北野病院 感染症科部長

羽田 敦子

演題名

COVID-19「ワクチン」mRNA-脂質ナノ粒子製剤の毒性と健康被害

”ワクチン接種後症候群”の臨床と疫学～問われる医師・科学者の責任

講師

一般財団法人 LHS 研究所代表理事／京都大学名誉教授

福島雅典先生